

浄土

monthly JODO



貧乏董

三宅政吉

グラフィック・デザイナー



口径157ミリ、高台径75ミリ、高さ30ミリ。
見込みには灰による粒状の緑色の自然釉がかかっている

貧乏人としては骨董市で使えるお金はせいぜい三千円ほどのものである。いいものがあっても三千円を越えるとなかなか手が出ない。しかし、この山茶碗はどうしても手に入れたかった。業者の親父におそろのおそろ値段を聞いてみた。「六千円」と言う。うゝむ、高いなあ。何度も手にとつて眺め回していたのだが、なに、外呑みを二、三回控えればいいじゃないかと買うことに決めた。親父に「もう少し安くならない」と尋ねると、「うゝん、五千五百円」。五百円でもありがたい。山茶碗は常滑や瀬戸周辺、東海地方西部で焼かれた日用雑器であるが、この茶碗は猿投窯^{さるひょう}の窯跡から発掘されたものだと言ふ。おそらく鎌倉時代のものである。

と付け加えたが、どうだろうか。

猿投窯は古墳時代後期から鎌倉時代初期にかけて、現在の愛知県を中心として九百年ほど続いた窯である。五世紀の半ばに朝鮮半島から伝えられた須恵器の技術（轆轤^{ろくろ}の使用と密窯^{みつぐら}による高温焼成）を使って焼き物が作られることになる。それまでの土師器は野焼きであったが、密窯は高温（野焼きは五〇〇〜八〇〇度、密窯となると一〇〇〇度を越える）となり固く焼き締まる。また高温による焼成で、薪の灰を被った部分が自然釉となる。

さて、この茶碗だがヒビや石はぜ、ブク（釉が泡状にふいたもの）など、使用された陶土の粗さがみられる。高さも三〇ミリと茶碗としては少し低い。高台を見ると押しつぶされたような歪みがある。おそらく重ねて焼かれたときに下の方に置かれ、全体が押しつぶされたのだろう。ヒビや口縁部の割れから、失敗作として廃棄されたもので、長い間地中に埋もれていたものが発掘されたと思われる。肌は荒々しいが、どこどこに緑色の自然釉がかかり美しい。山茶碗は初期には高台をもっていたが、鎌倉時代に入ると高台はなくなったという説もある。だとしたら、この茶碗はもう少し時代を遡ったものだという可能性もある。

素朴な土の味と自然釉の味わいが、この茶碗の魅力と言えよう。食器として使えるものではないが、身近に置いて小物入れとして愛用している。

浄土

2017/6月号 目次

連載	私の好きなご法語	真野龍海	2
連載	法然上人と親鸞聖人(十一)	林田康順	4
連載小説	渡辺海旭 ⁷⁹	前田和男	10
連載	響流十方	林田康順	16
連載	江戸の川を歩く	森 清鑑	20
連載	誌上句会	選者＝無縫庵烏鷺坊	28
連載	マンガ さっちゃんはネツ	かまちよしろう	31
編集後記			32



表紙題字＝中村康隆元浄土門主

表紙写真＝鬼海弘雄

アートディレクション＝近藤十四郎

協力＝迦陵頻伽舎

ここに、わが如きは

すでに戒定慧の三学の器にあらず

『聖光上人伝説の詞』

この言葉は強烈な意味を持っています。「戒などで悟ったものがないではないか」というような仏教誕生以来、どのような学僧たちも声に出したことのない、思ったかもしれないが声には出せなかった言葉です。

従来の仏教に対する痛烈な反省や批判でもあります。法然上人はあまりむき出しに激しい辛口の批判はされない方であります。しかしこの言葉は、強く烈しく、誰にも言えなかった述懐です。

仏教と言えば、この戒定慧の三つを金科玉条としてきたからです。残念なことですが持戒堅固が風化してきた今ならば、何となく聞き流される人がいるかもしれません。当時としては仏教界に対しての爆弾発言のような言葉です。何故ならば、上人の研修された比叡山は戒の根本道場であり、上人もまたその重要な伝承を受け継ぐ智慧第一の誉れ高き学

僧であつたからです。

私はこれは有名な童話「裸の王様」に出てくる街の子供の発言と同じだと思っています。

このお話はご存じの方も多いと思います。

ある王様が、優れた者には見えるが凡庸な者には見えない不思議な繊維のお召し物を、高名な職人に作らせたと城下に予告します。とうとう、この、世にも珍しい王様の洋服がお披露目される日となり、その服を着たという王様の行列がやってきます。人々は自分には見えるだろうと思って見に来ると慌てました。王様は一条も纏っていないのです。服が見えないのです。大人は慌てました。自分には見えないはずがないと、皆見えたことにしたのですが、しかし子供は正直です。言いました。

「あつ、王様は裸だ。」

法然上人には恐縮ですが、上人はこの子供のように、否むしろもつと強く、智慧と勇氣を持って、

「戒と悟りへの道が空しい、見えない」と、長い仏教史の中で初めて声を上げられたのであります。

大本山清浄華院

真野龍海

台下

法然上人 と 親鸞聖人

〔連載十二〕

— 法然上人が捉えた
お念仏② —

林田 康順

（大正大学教授）

法相宗の常識

法然上人在世当時、天台宗の延暦寺と並んで絶大な力を有していたのが法相宗の興福寺で、この二ヶ寺を指して「南都北嶺」と称される程でした。興福寺の僧は春日大社の神木を担ぎ、延暦寺の僧は日枝神社の神輿を担いで強訴を繰り返すなど、朝廷にも大きな影響力を持っていました。前号で紹介した『浄土立宗の御詞』において法然上人は、法相宗の教えに従えば、阿弥陀仏の極楽浄土に対する評価はたいへん高次なものですが、私達のような煩惱具足の凡夫の往生を認めることは決してありませんと述べられました。どうしてもこのように言えるのでしょうか。

天台大師同様、慈恩大師きん基も、諸經典に説示される無数の浄土について、次のような四段階に分類する四身四土説を提唱されています。こちらも専門用語が多くなってしまいま

すが、一瞥してみましよう。まずAランクの法性土は、自性身（法身）が主宰する浄土で、真理そのものとしての世界です。次にBランクの自受用土は、自受用報身（修行に報いて成仏し、無限の寿命を具えた仏）が主宰する浄土で、仏が自身で享受する世界と言えます。さらにCランクの他受用土は、他受用報身（他のために慈悲を及ぼす報身仏）が主宰する浄土で、十地という高位の菩薩が往生できる世界です。最後にDランクの変化土は、変化身（修行を経て成仏し、有限の寿命を具えた応身仏）が主宰する浄土で、十地以前の菩薩、声聞・縁覚の二乗、そして凡夫が往生できる世界です。

これら四種浄土の中、慈恩大師によれば、兆載永劫の修行を経て成仏されたのが阿弥陀仏であり、その阿弥陀仏が建立されたのが極楽浄土であるから、阿弥陀仏は他受用報身、極楽浄土は他受用土（報土）のCランクとなります。しかし、その浄土に往生できるのは、菩薩の五十二位の中、最上位の十地以上に限定されます。なるほど『浄土立宗の御詞』通り、阿弥陀仏の極楽浄土の評価は高いけれども、私達のような凡夫の浄土往生は到底不可能なのです。だからこそ法然上人は、法相宗の常識にも留まるわけにはいかなかったのです。

平行線の教え

法然上人は、もつとも勢力が強かった天台・法相両宗を例にとっているだけで、私達のような煩惱具足の凡夫が、最高の浄土に往生できることを説く宗派など、当時はまったく存在しませんでした。私は、こうした天台宗や法相宗の常識を次のように整理しています。

☆平行線の教え―凡夫の常識―

難しい諸々の行⇨勝れた功德⇩勝れた人に用意されている

易しいお念仏⇨劣った功德⇩劣った人に用意されている

つまり、難しい諸々の行には、勝れた功德があり、その行は勝れた人に用意されています。ですから、菩薩の階位が上がれば上がるほど、より高度な浄土に進んでいくことが可能になります。一方、誰にでも修められる易しいお念仏は、どれほど頑張ろうとも劣った功德に留まり、劣った者に用意された行に配当されています。「安かろう、悪かろう」という言葉をもじれば、「易かろう、悪かろう」といった具合であり、「簡単な行には、たしいした功德しかない」という見方です。

もちろん、こうした「平行線の教え」こそ、修行を通じてさとりを目指す仏教の基本的な思考スタイルに近いものです。だからこそ法然上人は、次のように仏教を捉え、その上で煩惱具足のご自身をいたく歎かれることになるのです。

およそ仏教多しといえども、詮するところ戒定慧の三学をば過ぎず。いわゆる小乗の戒定慧、大乘の戒定慧、顕教の戒定慧、密教の戒定慧なり。（中略）ここにわがごときは、すでに戒定慧の三学のうつわ物にあらず、この三学のほかにわが心に相應する法門ありや。わが身にたえたる修行やあると、よろずの智者にもとめ、もろもろの学者にとぶらいしに、教うる人もなく、示すともがらもなし。（『聖光上人伝説の詞』昭法全四五九～四六〇）

（試訳）本来、仏の教えは多くあるとはいえ、せじ詰めればそれらはすべて、戒律

を守ることを、心を静める禪定、そして煩惱を断ずる智慧の三学におさまります。いわゆる小乗仏教における三学、大乘仏教における三学、顕教における三学、密教における三学です。（中略）「この私など、これら戒定慧の三学に堪えうる器ではない。この三学のほかはこの愚かな私の心に見合う教えはたしてあるだろうか。この私に堪えうる修行はあるだろうか」と、多くの智慧者を探し求め、さまざまな学者を訪ねましたが、そうしたことを教えてくれる人もなく、助言してくれる仲間もおりませんでした。）

こうした経緯を経て法然上人は、阿弥陀仏の大慈悲を明らかにされた善導大師の教えに巡り会い、ご自身の慟哭に一对一で向き合って下さる阿弥陀仏に帰依し、その極楽浄土を求められることとなります。そして、「浄土三部経」に基づいて善導大師が説示される報身・報土としての阿弥陀仏・極楽浄土こそ、最高の仏様であり、最高のお浄土であると確信し、阿弥陀仏自らが浄土往生の行としてお誓いになった本願念仏に邁進されるのです。

ところが法然上人は、本願念仏と諸行の功德を体系的に対比した説示を善導大師の著作中に見出せませんでした。法然上人は、このままでは本願念仏を前面に据えた浄土宗の立教開宗がおぼつかないと考えられたことでしょう。

たすきがけの教え

そうした中で法然上人は、万巻の經典を読み進めていく内に『無量寿経』の異訳である『大阿弥陀経』や『平等覚経』に説示される「選択」という用語と邂逅します。そして、『選択集』において法然上人は、全仏教の帰結としての選択本願念仏思想の体系化に成功され

ます。選択本願念仏と諸行の功德の対比について明記されたのが、『選択集』第三章段における勝劣義であり、第五章段における大小義であり、第十三章段における多少義に他ありません。つまり、お念仏は勝善根・大善根・多善根の功德を有するのに対し、諸行は劣善根・小善根・少善根に留まるのです。私は、先述した「平行線の教え」に対し、善導大師の説示に基づきつつも、法然上人が確立された教えを次のように整理しています。

☆たすぎがけの教え―阿弥陀仏の常識―

難しい諸々の行⇨劣った功德⇧自身の持つ力に限定されるから

易しいお念仏⇨勝れた功德⇧阿弥陀仏のお力が加わるから

つまり、難しい諸々の行は、劣った功德に留まります。なぜなら、すべての人はまぎれもなく煩惱具足の凡夫ですから、どれほど行に励もうとも、所詮、私達自身の持つちっぽけな力の範囲を超えることはないからです。

それに対して易しいお念仏は、その他の難しい行の功德が足元にも及ばない程の勝れた功德を有しています。なぜなら、他ならぬ阿弥陀仏ご自身の本願に基づく偉大な力が加わるからです。阿弥陀仏は、私達のような煩惱具足の凡夫でも修められる易しい行を浄土往生の行としなければ、すべての衆生を救いとのことなどできないとお考えになり、称名念仏を選定されました。加えて阿弥陀仏は、ご自身が建立された浄土がもつとも素晴らしい世界である以上、勝れた功德を具えた行でなければその浄土に往生を叶えることはできないともお考えになり、お念仏を称えた者に他のいかなる行が足元にも及ばない勝れた功德

を振り向けて下さるのです。ここに勝易念仏が成立します。

法然上人は、『選択集』第十一章段において次のように説示されます。

極悪最下の人の為に極善最上の法を説く。（聖典三・一六一）

（試訳） もっとも重い悪事を犯してしまった到底救われたい者のために、もっとも尊く勝れた功德を具えたお念仏を説き明かします。

すべての人々が平等に修められること、もっとも勝れた功德を有すること。法然上人にとつて、これら二つの条件が満たされることが必要でした。なぜなら、それによつて私達のような煩惱具足の凡夫であっても、最高の浄土（報土）に往生することが約束される「凡入報土」の構造が明らかになるからです。『選択集』において法然上人は、この困難な課題に正面から取り組まれ、勝易念仏思想を成立させることによつて見事にその課題を解決に導き、お念仏の一人立ちと浄土宗の独立を宣言することになるのです。

以上が、法然上人が構築された選択本願念仏思想の基本です。

（続く）

古き伝統技
三代にわたる信頼

有限
会社

浄土宗法衣専門
古島法衣店

〒111 東京都台東区元浅草4の2の1
電話（03）3842-1289
振替 0018002145231

小説 快僧渡辺海旭

壺中に月 を求めて

前田和男

第七十九回

第二部

ライン
来江の古城遥かなり

さらば、愛しきドイツの女よ①



亡き牧師夫人がモデル？

前号では、渡辺海旭がドイツ駐劄日本大使の珍田捨己の説得で帰国を決意した背景には、海旭と生涯を約した女性の存在があるに違いないと妄想を逞しくし、海旭の書簡の記述から「それらしきドイツ女性」のあぶりだしを試みた。

そこから、どうやら海旭の好みは、当たり富籤を予言する怪しげな「主婦の妹E」よりも、底辺の労働者のために音楽会を企画する上流の「M夫人かS嬢」ではないかとの類推を得たが、それだけではなお納得がいかに読者諸賢もおられることだろう。

ならば、もっと確かな証拠はないものかと、さらなる渉獵を試みたところ、これぞ海旭にとって相思相愛の女性ではないかと思わせるモデルが浮かびあがってきた。

それは、海旭の二つの寄稿文にある牧師夫人である。一つは留学中の明治四十年に「新

仏教」によせられた「身辺雑記」の一部、もう一つは帰国後の明治四十三年五月、自らが主筆をつとめる「浄土教報」に「牧師ベッケル氏を想ふ」の題で掲載された随筆風一文である。

内容を紹介する前に、まずは後者の日付に着目していただきたい。

もし、海旭の帰国の背景にあるドイツ女性の存在があり、そこに後ろ髪を引かれる想いの別離があつたとしたら、帰国の直後になんらかのメッセーヂを、自らへの「決意」として書き残しているのではないか。それは「君のことは一生忘れない」という「恋文」といってもいいかもしれない。

帰国して、一月もしない時期に、しかも主筆に着任したばかりの宗門の「機関紙」に、自らにしかわからない形でそれを書き記したとしたら、それは海旭の女性を特定する重要な鍵を握っているとみていいのではないだろうか。

それでは内容の検証に入ろう。さて、前者の「新仏教」によせられた「身辺雜記」だが、それは、「大雪の後なりき。予はアルザスの山間の一小都市に、牧師B君を問いぬ」(『壺月全集』下巻、四四六頁)の書き出しではじまる短いもので、概要は以下のとおりである。留学して五年ほどたった年明けの某日、前日からの大雪がようやく已んだ夜だった。古くからのプロテスタントの友人の夫人が亡くなったとの知らせをうけた。その友人はストラスブルクから電車で二時間ほどのアルザスの小都市で牧師をしていた。海旭は朝一番の電車に乗って弔問に訪れた。牧師には四児がいた。海旭は子たちのためにこの時節のストラスブルク名物を持参し、うち沈む友のために、半日は牧師館の書斎とともに過ごした。ドイツの嚴冬期は夜の訪れが早い。日中でさえ弱々しい陽の光が薄れてきたので、ぜひ夫人の墓に詣でたいと申し出ると、異教の友はそれを諾として、案内してくれた。はるか

遠くに見晴るかす雪をいただいたホクエーゼン連峰から、凜々たる寒風が吹き降ろすなか、二人は半ば凍ったラインの支流、プロイシュ溪谷をわけいった。雪の中に紅や紫の花が添えられた墓があり、それが夫人の新墓と知れた。海旭は墓にかかった雪を掻き退け、持参した花輪をかけると、数珠を取り出して、四誓偈を誦し、十念を微唱し、しばらく黙禱を捧げた。

牧師館の書斎での慰撫と同じく、異教の友は、異教徒による異教の弔い方を受け入れて、傍らにただ黙って立ち尽くしていたが、やがて閉じた両眼からはらはらと涙が流れ落ち、ついにこらえきれずに嗚咽をもらしながら声を上げて泣き出した。

海旭ももらい泣きをしながら、夫人の死がちょうど降誕祭にあたっていたことに気づいて、友に囁いた。「思い切り泣きなさい。泣いていいのだ。さぞやつらかっただろう。降誕祭ではたくさんの信徒を前に説教やら祈り

やらと儀式がたくさんあって、妻のために泣くわけにもいかなかった。こらえにこらえて、ずつとしのんできたのだろう。さあ、ふたりできみの令聞^{れいもん}のために、ここで思いつき泣こう、さあ泣こう」

そして海旭は最後をこう結ぶのである。

「我らの涙は、基督教と仏教との境界を融け去った。独逸人と日本人との区別をも融け去った。ふたりは同情海中の人となって、時の経過も忘れ、あたりが暗くなるまでただただ泣き濡れた」と。『壺月全集』下巻、四四六頁)

農婦のごとき君なりき

なんだ、なんだ。たしかに感動的な文章ではあるが、いったいこれのどこが「恋文」なのだと読者諸賢から叱責を受けそうである。おっしゃるとおりで、筆者もこの短信だけだったら、ここで取り上げることはなかったろう。しかし、海旭は、この短信から三年後、

帰国直後に再び件の牧師一家について書き記している。しかも「前者」の主役は「妻を亡くした夫」であったが、「後者」のそれは「亡き夫人」その人である。この落差にこそ着目すべきヒントがある。さしずめ名探偵ボワロ氏の灰色の脳細胞をもつてしたら、たちどころにここに「海旭の女性某」を解き明かす鍵を発見するであろうと、わがシワの伸びきった凡庸なる脳みそは感じたのである。

帰国直後のこの随筆風一文は、タイトルこそ「牧師ベツケル氏を想ふ」となっているが、夫への言及は二つの段落までで、それ以降はすべて夫人に捧げられている。海旭は、「前信」の夫人の墓参にふれた後、「あ、少しくこの亡き夫人につきて、我追想を書いて見ようか」と記して、いきなり彼女の容姿をこう描いてみせる。

「我友の妻は決して麗しき女ではなかった。其思ひきつた質素の服装は、一層彼女をして農婦のようにしてしまった」。それに加えて、

「寧ろ無愛想にして口数の少きは、彼女をして弥益百姓女の丸出した」〔『壺月全集』下巻、三九六―三九七頁）

な、なんと、「農婦」「百姓女丸出し」とは、リーゼントの髪型にフロックコートををりゅうと着こなした留学時代の紅顔の美青年・海旭を知り、美男には美女が似つかわしいと考えていた読者諸賢にとっては（いや筆者もだそうが）、想像を激しく裏切るものだろう。

しかし、「農婦」「百姓女丸出し」は侮蔑どころか海旭の最大の褒め言葉であることが、この先を読み進むと判然とする。

「ますます百姓女然だが、内実はこれぞ牧師の妻の鑑だった」と記して、海旭はこう続ける。

夫人は海旭とドイツで出会う前、牧師の夫とともに、インドでも極貧地域として知られる南部で十年ほど布教活動に同伴。常に内助の功を果たした。親しくなつて家に招かれるようになって、あるとき質素きわまりない暮らしの中に金属の食器類が輝いているのが奇

異に思えて、海旭は尋ねた。すると彼女が親身に接した幾百のドラビタ族の女性たちから、ベッヘル夫人に贈られたものだという。夫人が母のごとく慕われている証であった。

夫人には五人の娘たちがいた。どの子も可愛くて賢かった。あるとき子供たちに誘われて、近くの野原に花摘みに出かけた。一番年下の娘から、「おじさまはとても外国の言葉が得意だと父から聞いているけれど、英語もできるの、フランス語もインドの言葉もできるの」と聞かれた海旭は、「ああ、できるとも」と答えてから、その可愛さをめぐるあまり、いたずら心が湧いてきて「おじさんはね、人間の言葉だけじゃなくて、犬の言葉だって猫の言葉だってできるんだよ」と答えた。

すると、その子の表情が一変、真顔になった。「そんな嘘をいってはいけません。母からいつもそう言われています」

海旭は愕然として「ごめん、冗談だ、冗談。お嬢ちゃんのいうとおりだ、いやお母様のい

うとおりだよ」と答えて、夫人の母親としての
の躰の素晴らしさにいちだんと敬意を深めた。

牧師一家がインドから帰国して赴任した地
は、かつてカトリックの大学があったところ
で、人口の六分の五はその信者で、バザール
などを催そうものなら激しい妨害をうけ、布
教に大いに苦心をしたが、それを救ったのも
夫人であった。無口ではあるが親切で敬虔な
態度で、昔ながらの口うるさい年寄り信者た
ちの敬慕をかちとることができたのだという。

そして、最後に海旭はわが国における僧妻
問題にテーマを転じると、こう結んだ。

「学徒を教へ、宗学を説く人を内助する責に
あるものが、徒に黄白こうはくを教え、綺羅きろを飾るの
外一称の唱名も、半箇の信仰もなき婦人があ

りはせぬか。(略)僧妻問題は今方に實際問
題である。而して之が光明ある解決の方法は
唯一つだ。曰く、宗教的人格ある、わがベッ
ヘルベッヘルの如きものを教界に得ることだ。否競ふ
てベッヘル夫人たるを期することだ」(『壺月
全集』下巻、三九八頁)

なるほど結語は僧妻問題だが、深読みせず
とも素直に読んでも、それは唐突でわざとら
しい。付け足しに思えてならない。むしろ
「僧妻問題」にかこつけた内実は牧師夫人へ
の讃歌であり、「恋文」ではないのか。ポワ
ロ氏ほどではないわがお粗末な脳味噌をもっ
てしても、そう管見されるが、いかがであろ
うか。

(つづく)

生けらば念仏の功つもり、死なば浄土へまいりなん。とてもかくてもこの身には、思いわずろう事ぞなきと思ひぬれば、死生ともにあらずらいなし。

（法然上人『つねに仰せられける御詞』）

生きている間はお念仏を称えてその功德が積もり、命尽きたならばお浄土に参らせていただきます。「いずれにしてもこの身にはあれこれと思ひ悩むことなどないのだ」と受けとめたならば、生きるにも死ぬにも何事にも思ひ悩むことなくなるのです。

「第二〇回・手帳大賞」から―たった一つの命とお念仏の尊さ―

昨年十月十九日、手帳・カレンダー大手の高橋書店が実施する「第二〇回・手帳大賞」が決定し、表彰式が行われました。毎年、私が楽しみにしている「名言・格言部門」には、なんと一万九千九百三十六通もの応募がありました。家族や友人との日常の何気ない会話の中で、相手がふと口にした言葉に感心・感動・感銘し、思わず手帳にメモしたくなってしまう。「名言・格言部門」は、そんな身近な方の言葉を投稿する場です。昨年の受賞作の中から、素敵な「名言」と投稿者のコメントを紹介させていただきます。

☆黛まどか賞（おはなしのきれいなひとだったねえ）

★鍛冶銘子さん（五十五歳・主婦）「言葉遣いの丁寧な私の友人が帰ったあとで、3歳だった娘がしみじみと。そんなことに心を留めていたことにおどろき、それを3歳児の語彙で表現するところになると新鮮な印象を受けました。」

丁寧な言葉遣いは、聞いた方の心に共鳴して、おだやかな気持ちを促し、やさしい心を育んでくれます。それは、どんなに幼くとも例外ではないのでしょう。この3歳の娘さんも、この日の気持ちを忘れず、「おはなしのきれいなひと」に自然となっていくことでしょう。

☆椎名誠賞 〈赤ちゃんランドセルだ！ ママも一年生だね。〉

★須合里美さん（二十九歳・主婦）「赤ちゃんをおんぶしていた時に、小学校入学したばかりの息子に言われました。上の子と下の子は6歳差。久しぶりの育児にバタバタしていたので…。その発言に、また一からがんばろうと思えた一言でした。」

ランドセルは、ピカピカの一年生にとって自分自身の成長の勲章です。この言葉の内には、本人は意識せずとも、「自分もお兄さんとして頑張るよ！」という、お母さんに向けたエールが込められているようです。お母さんは、立派に成長した息子の何気ない言葉にどれほど励まされたことでしょう。

☆優秀賞 〈ぼくは優しい怪獣になる！〉

★山崎いづみさん（三十四歳・パート）「息子は強くて大きい怪獣に憧れる腕白な男の子でした。ところが、自然災害のニュース映像を見て、土砂崩れに巻き込まれた自宅をみて泣く人や、川の氾濫で電柱につかまって助けを待つ人に心を痛めたようです。優しい怪獣になって、困っている人を助けてあげたいそうです。息子の小さな成長を実感した言葉です。」

日本の代表的怪獣といえばゴジラとガメラでしょうか。ゴジラもガメラも最

初は凶暴な怪獣として描かれますが、次第に正義の怪獣、子供達のヒーローとして描かれていきます。子供はもちろん、私達の素直な心は、やはり正義の味方が大好きなのです。慈悲の心に溢れている、とも言えましょう。

☆大賞 〈病室の夕陽より、やっぱり台所の朝陽ね〉

★相野 正さん（六十六歳・会社員）「ガンの外科病棟を退院し、帰宅した翌日、台所に立った妻の一言。」

手帳大賞の表彰式の際、相野さんは、「楽しみにしていた台所のリフォーム工事が終わらないうちに家内は入院したので、退院し思い通りにできた台所に立った喜びはひとしおだったと思います。健康がどれほどありがたいか、家族でしみじみと実感した言葉でした」と挨拶されたそうです。誰しも平等に与えられているたった一つの命、そして、自分にとって大切な方々との心と心のふれあい、私達はそれらを決して失いたくはないのです。

ここで紹介したいいくつかの「名言」は、何気ない日々の積み重ねの中に、たくさんの慈悲の心が溢れており、かけがえのない時がやさしく刻まれ続けていることを私達に気付かせてくれます。そうしたことの真実を見つめられた時、私達はお念仏の尊さをあらためて学ぶことになるのです。合掌

（林田康順）

江戸の川 を歩く

第十三回

江戸ウオーカー
森清鑑

神田川 水道橋く大洗堰

上流に向かって船を進める。水道橋を潜ると、岸の右側には広い明地、火除け地が広がり、西外れに市兵衛河岸がある。ここでは多くの荷が陸揚げされ、人々で賑わっている。明地の北側には、水戸中納言上屋敷の屋敷堀が連綿とある。その屋敷内には優美な庭園、後楽園がある。神田上水は、この庭園を通り、地下に入る。そして神田川に架かる懸樋（水道橋）を通過し、地中に張り巡らされた、石樋や木樋によって市中に配

給されている。

ところで、江戸の人々は、この辺りの流れを今のようには神田川ではなく、単に御堀と呼んでいたのである。それを象徴するかのように、舟の左手には高くも美しい緑の土手が続く。三崎稲荷の社が見え、やがて枳形に積み上げられた石垣と隅櫓のような堅牢な小石川御門が見えてくる。土手の幅はさらに広がる。この辺りまで来ると、右側からどんどん豊富な水が流れ落ちる音がこだましてくる。神田川が北から堀に流れ込んでいる。そこに架かる橋が船河原橋。橋の下には堰が

前方から大きな音がこだまし、目の前に大きなダムが現れる。これが関口大洗堰である。おおのいせき

長谷川雪旦が江戸名所図会に描く、「目白下大洗堰」はリアルで正確である。この大洗堰の高さは、九〜十メートルもあり、大きく堅固な石垣がコの字型に、正に聳えているのである。この石垣の上は、広く、平らな石敷きがあり、中央に水路が設けられ、水はここを通り、勢いよく、落ちていく。この大がかりな石垣の前には、上流から流れてきた水が堰き止められて貯まっている。ちょうどダム湖のように。よく見ると、平面石敷きの水路は、段差があり、まず小さく落ちる滝となり、それから大きな滝となって江戸川に落下しているのである。堰き止められた水の水位は、もっと高いわけである。その周囲は、柵が巡らされており、人が入れないようになっている。厳重な警戒。あたり、あちこちに監視の水番屋があり、水番人の家宅がある。彼らは、江戸市民の飲み水を厳重に管理している。

神田上水取水口

雪旦の絵の向きからは、上水（飲み水）の取水口は見えない。大洗堰のダムから江戸川に落ちている水は余水なのである。取水口はダムの山側にあり、一時プールに貯められ、さらに浄化され、もう一つの石柵を通り、この高さから、下を流れる江戸川を見下ろしながら、寄り添うように下っているのである。

大洗堰が江戸川より十メートルも高い位置に設計されている理由の第一は、ダムを造り、高低差を設け、上水の水量を安定供給できるようにしたこと。そして第二に、当時は、江戸川の入り口、つまり、現在の飯田橋近くまで満潮時に海水が逆流してきたため、塩分が上水に混ざらないようにしたこと……が挙げられる。したがって、大洗堰は上水になくはならない存在であり、神田上水といえは、大洗堰を連想するほど、上水の象徴的存在なのである。

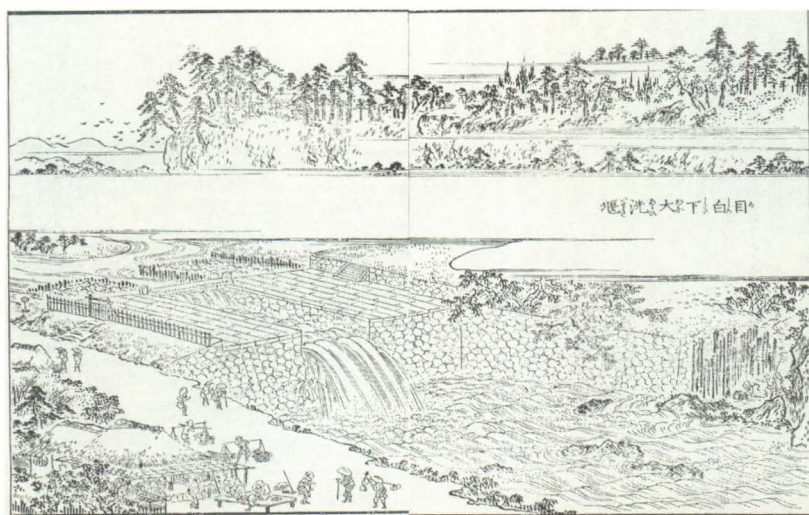
もう一度、雪旦の絵に戻ろう。手前に描かれている道路は、大洗堰平面部より少し低い位置にある。そこで道行く人から見ると、堰上段の平面部は目線平行か、

ちよつと高く、滝と江戸川はずつと下に見えたに違いない。人々は、滝の下を流れる余水、江戸川をのぞき込むように見ている。観光客に混じって、ぼてふり(商人)の姿もあり、ここが周囲の美しい景色とも相まって江戸の観光地であったことが分かる。茶店もあり、縁台に腰掛け、憩っている人も見受けられる。

松尾芭蕉

大洗堰ダムの道沿いに、水番屋があり、水番人が嚴重に水質を管理しているが、そのことと、俳聖、松尾芭蕉とは、実は深い関係がある。彼は、伊賀上野出身で、藤堂家に縁があった関係から、この堰工事にも携わり、完成後は水番人として数年間をここで過ごしている。

大洗堰に堰き止められた溜まりには、州があり、その先にあるのが駒塚橋。右手は山で、そこには上総久留里藩の中屋敷がある。ここは特に椿の花で有名だったところで、芭蕉のお気に入りの景色。明治になると、山県有朋は当地に居を構えた。それが今日の椿山荘(つばき山の意味)である。



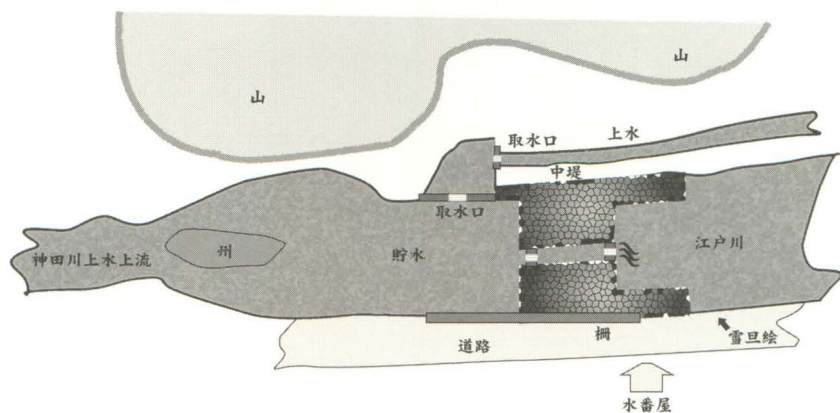
◆雪旦。江戸名所図会 目白下大洗堰。江戸川に流れ落ちている水は、余水。上水の取り入れ口は堰の山側にあり、ここには描かれていない。

堰の上流に駒塚橋がある。この橋を過ぎると、右手の山沿いに芭蕉堂が見える。隣にあるのが、水神社。神田上水の安全を祈願。そこに水神社の別当、竜隠庵りゅうかくあんがあり、芭蕉はここを居にしていたという。後年、芭蕉を師と仰ぐ人達が芭蕉五十周年忌にここに芭蕉庵（芭蕉堂）を建てたわけである。芭蕉はここからの景色が気に入っていたようで、辺りの景観が近江の瀬田に似ているところから、一句、「五月雨に隠れぬものや瀬田の橋（駒塚橋のこと）」という句を残している。広重はここを描いている。

妙正寺川、下落ち

さあ、上流へと川に沿って歩みを進めよう。左手を観ると、早稲田村、関口村の田畑が広がっている。無論、舟は入れられない。清廉な水を汚してはならない。流れは、下高田村の田畑を縫うように蛇行しつつ、右手に南蔵院の屋根を観て、さらに行くと、幾つもの流れが折り重なり、神田上水に注いでいる。場所は下落ち村。日蓮宗、妙正寺の池（杉並区妙正寺公園）を水源とする流れが、ここで神田上水に合流しているので

大洗堤上面図



ある（西武新宿線下落合駅の処。落合とは、二つの流れが合流するところからついた地名）。妙正寺川は、一本化された水路となつて現在もある。

善福寺川

神田上水は、蛇行しながら、さらに南に下り、中野村を通過する。そして角筈村（新宿近辺）で流れを西に転じ、和田村の処で西から流れてきた善福寺川が加わる。

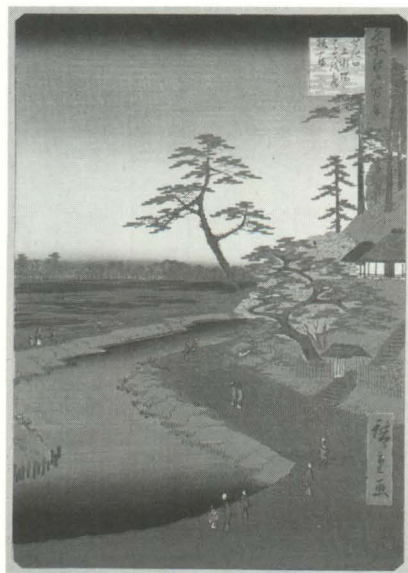
善福寺川は、善福寺公園の広大な池を水源とする流れて、水源の善福寺池は、今で言う、中央本線西荻窪と吉祥寺駅の北に位置し（東京女子大の北側）、神田上水の源地、井の頭池ともそう遠く離れていない。この辺り、江戸時代は、美しい武蔵野の田園地帯で、善福寺公園は、今でも、都民憩いの場である。江戸時代の水源と言え、そのさらに北に、武蔵野三大湧水池、三宝寺池があり（石神井公園、石神井川）、江戸を潤していたのである。

善福寺は曹洞宗の寺院で善福寺池の北側に隣接している。これら、妙正寺川も善福寺川も、江戸時代には、

「神田御上水」と呼ばれ、厳重な水の管理がなされていた。

井の頭池

神田上水の本流は、田園の中を蛇行しながら南に下り、和泉（明治大学和泉校舎北側）から再び、緩やかに北へ転じ、久我山を経て、井の頭池に到達する。

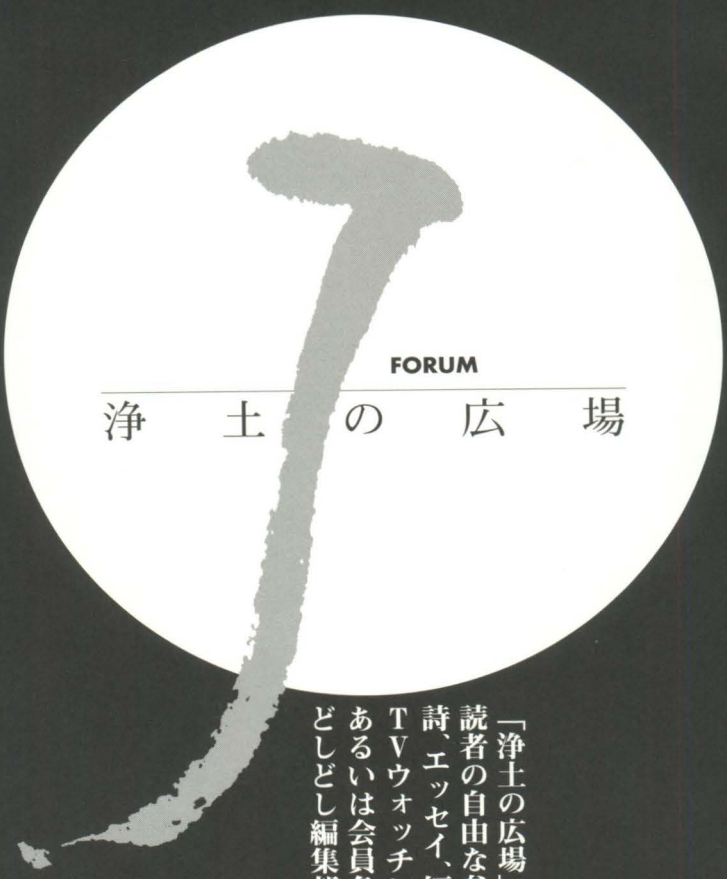


◆広重江戸名所百景四十番：関口上水端芭蕉庵
椿山：左、神田上水。右中、芭蕉庵。早稲田田
園が広がっている。

神田上水上流（水源）



江戸時代、井の頭池は、「七井の池」とも言われ、広い池の七カ所から豊富な湧泉があったという。無論、当時は鬱蒼と木が茂り、神秘的な光景。三代将軍家光は、よくここに鷹狩りに来た。ある時、休憩時、池端で茶をたてる。池の水を使つての茶の湯。ことのほか、うまい。彼は、小柄を抜いて、近くの辛夷こぶしの木の幹に「井の頭」（井戸の王様）と刻む。この時から人々は、井の頭池と呼ぶようになった。池の中央にある中之島には弁財天が建っているが、その歴史は古く、源頼朝の創建という。江戸時代、ここへの信仰を兼ねた遊楽客が大勢訪れていたそうで、昔も今も癒しの観光地であった。神田上水は細長い池の東端にある取水口から今歩いてきたルートで大洗堰に到達するのである。



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では

読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウォッチング、紀行文、その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。

どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

●連

〔特選〕借りてきた地図にソ連のある遅日

佐藤 颯乃

戦後七十数年、世界の地図は大変化を遂げた。アフリカ諸国の分離独立。東西両ドイツの統一やソビエト連邦の解体。そのため少し前の地図はあつという間に古いものとなる。それらをあえて、おつとりと思う春の日。

〔佳作〕あぶ虻飛んで不思議な町へ連れてゆく

入谷 萌

連綿と桜は闇に溶けゆけり

佃 亜希子

連峰にひとひらの雲こぼし咲く

和田 謙作

●歌

〔特選〕花冷えや唱歌にむつかしき漢詩

内藤 隼人

戦前の小学校唱歌には生まの漢文読み下しなどの歌詞が出てきた。「天勾踐を空しゅうするなかれ」が歌われる『尻島高德』はその典型。

むかしの児童は唱歌で歴史や地理を諳^そんじた。
花冷えという季語が効いている。

〈佳作〉春の歌欠落の歌風の歌

村松 芳郎

藤棚を見上げてひとり歌人かな

横山芙美子

林檎の花賛美歌低くはじまりぬ

山口由美子

●自由題

〈特選〉ふらこことが昨夜の位置にありにけり

目黒

裕

ふらこことはブランコのこと。春の季語である。あのような遊具は動かせず、昨夜の位置にあるに決まっているのにそれを不思議と見た。いわば俳句的観点である。「ありにけり」の常套が、むしろすっと腑に落ちる。

〈佳作〉屋上のポピー明るく禍々し

井口 吾郎

点滴を引き連れ歩く春の暮

前島 徹

傘立に傘刺してあり花の雨

高崎 郁朗

誌上句会〈編集部選〉

■連

連山やおまけのように春の雲
春深しがしやりと貨車が連結す
永き日の柵に連なる馬の鼻
連翹の広き土手ですきみとほく
質屋から子連れ出でたる四月かな
はだら雪かすかに軋む連結器

時任和彦

阿部 拓

月島弥生

井草啓治

西嶋亜梨沙

二階智英

■歌

鳥雲に入りぬ日本春歌考
歌えども歌えども花いまだ二分
有線は歌謡曲のみ花の昼
でたらめな母の鼻歌日永し

新島富雄

能條優里亜

紺野しのぶ

市井沙里

浄土誌上句会の
お知らせ

締切・二〇一七年七月二十五日
発表・『浄土』二〇一七年九月号

応募方法

● いずれの題とも数の制限はありません。

● 特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句(何句でも可)と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-14 明照会館内
月刊『浄土』誌上句会係

家康
自由題

花の冷え黒人霊歌地を這えり
野遊びの二番の歌詞はルルルル
上野幸四郎
宮崎利光

■自由題

水紋を魚と思う花の雨
四月一日でっぺん禿げている古墳
花の昼菟弱のごと犬老いる
かあさんと言つて桜へ歩み寄る
血圧の高い順番さくら散る
遠縁にあたると告げて燕去る
母と子と風船浮いたまま眠る

刈谷幹雄

野島寛哉

南 亜紀

仁平真智

古山浩司

新藤安祐美

遠井行正

141

かい日

さっちゃんね

かまちよろう



かまちよろう先生作新聞四コマ漫画「ゴンちゃん」が各地方新聞に掲載されています。(静岡新聞・山梨日日新聞・北日本新聞・福島民報・宮崎日日新聞・新日本海新聞・神戸新聞・岐阜新聞・中国新聞・四国新聞)



編集後記

ボトルから新茶の香り探しつつ

岱潤

数年前から芥子^{けし}の花の系統で、読売巨人軍のオレンジ色の花をよく目にするようになった。きれいでかわいい花だと思っていたら、空き地はあつという間にその花一色になってしまった。

ラジオ体操がいつしよの近所の方から、今日その花の話を聞いた。外来種でナガミヒナゲシといい、種がはじけると一つから千五百以上の種がこぼれ、一株から十五万以上にもなり、他の植物を圧倒してしまう花だそう。花を育てているお庭にもし一輪でもその花を見つけたら、すぐに採らないとんでもないことになる

るそうだ。

先日『東京新聞』の「筆洗」で、「ラクダの鼻」という英語の慣用句の話が紹介されていた。ある男がラクダをつれて砂漠を旅していた。疲れたラクダはある晩男に頼んだ「鼻だけテントの中に入れてもいいですか」男は快く応じた。それ以来ラクダは、顔を、首を、脚をと大胆になり、結局ラクダがテントの中で寝るようになった。小さく無害に見えてもそれをいったん認めれば、既成事実となり、やがて取り返しつかないことになる譬えだそう。

この「らくだの鼻」の話の譬え、『東京新聞』が言うように、これくらいならい

いかとアメリカにおべっかを使っている、いつの間にか戦争に巻き込まれてしまふことになったら、それこそ大変だ。日本中が芥子の花に占領され、巨人一色にならないためにも。
(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤晃道
佐山哲郎
青木照憲
村田洋一

浄土

八十三巻六月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成二十九年 五月二十日

発行 平成二十九年 六月一日

発行人 佐藤良純

編集人 大室了皓

印刷所 株式会社 晩印刷

〒一〇五・〇〇一一

東京都港区芝公園四丁目四明照会館四階

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三三・五七八・六九四七

FAX 〇三三・五七八・七〇三六

振替 〇〇一八・〇八・八二八七

雑誌『浄土』

特別、維持、賛助会員のの方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
巖谷勝正(目黒・祐天寺)
魚尾孝久(三島・願成寺)
大江田博導(仙台・西方寺)
加藤昌康(下北沢・森巖寺)
熊谷靖彦(佐賀・本應寺)
桑原恒久(川越・蓮馨寺)
桑原勇慈(甲府・瑞泉寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤成順(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光圓寺)
東海林良雲(塩釜・雲上寺)
須藤隆仙(函館・称名寺)
高口恭典(大阪・一心寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
野上智徳(静岡・宝台院)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓文(静岡・華陽院)
本多義敬(両国・回向院)
松濤泰彦(芝・寶松院)
真野龍海(大本山・清浄華院)
水科善隆(長野・寛慶寺)

(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://jodo.ne.jp>

メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

映画監督・ドキュメンタリー作家

森 達也 講演

世界はもっと豊かだし、
人はもっと優しい

森 達也 もり たつや

1956年 広島県生まれ 立教大学卒業

98年オウム真理教の荒木浩を主人公とする映画『A』を公開。2001年、続編『A2』が山形国際ドキュメンタリー映画祭で特別賞・市民賞を受賞。著書に『放送禁止歌』『下山事件』『いのちの食べ方』『王様は裸だと言った少年はどうなったか』など多数。最近は季刊誌『法然思想』に法然上人について連載中。

6月22日(木) 午後2時から3時半
大本山増上寺(慈雲閣1階ホール)

一般 1,000 円 当会会員無料

予約・問合せ先●法然上人鑽仰会

東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階 〒105-0011

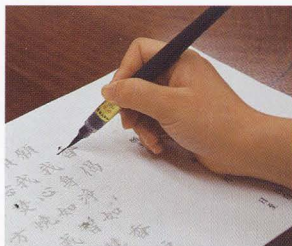
E-mail hounen@jodo.ne.jp / ファクス 03-3578-7036

檀信徒の皆様へ

写経 セット

浄土宗勤行の解説も付いた12枚組

浄土宗の日常勤行式が
写経になった!! 写経後は
オリジナルの経本
にもなります。



薄墨手本をなぞる
オリジナルA4判

詠唱会
の皆様へ

写詠歌 セット

宗歌「月かげ」と春夏秋冬の和歌
解説付き5首セット



詠唱でお唱えする歌、
法然上人のお歌を
筆で写して心に刻もう!

当会オリジナル新商品!!

法然上人を心から慕う
法然上人鑽仰会だから
こそ作れる高級奉書の
オリジナル手本です。

法然上人鑽仰会 FAX : 03-3578-7036

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4明照会館4階

※お問い合わせは、Fax またはメール

hounen@jodo.ne.jp へお願いします。